

一般廃棄物処理基本計画に係る目標の進捗状況等について

1. 目標の進捗状況

一般廃棄物処理基本計画（令和3年度～12年度）においては、①ごみ総量、②1人1日当たりの家庭ごみ排出量、③最終処分量、④家庭ごみに占める資源物の割合の4つの目標を掲げており、計画初年度となる令和3年度の実績は、次のとおりである。

(1) ごみ総量等

(単位:トン)

	R元年度 (基準値)	R2年度 (実績)	R3年度		R7年度 中間目標	R12年度 最終目標
			実績	前年度比		
①ごみ総量	373,373	363,336	361,199	▲0.6%	350,000	330,000
生活ごみ	234,235	240,647	238,107	▲1.1%	220,000	210,000
家庭ごみ	184,794	188,759	186,169	▲1.4%	172,300	158,000
缶・びん・ペットボトル等	20,621	21,906	21,914	+0.1%	21,000	22,000
プラスチック製容器包装	12,616	13,181	13,162	▲0.1%	12,500	14,000
紙類定期回収	11,347	11,842	11,806	▲0.3%	10,000	12,000
粗大ごみ等	4,857	4,959	5,056	+2.0%	4,200	4,000
事業ごみ	139,138	122,689	123,092	+0.3%	130,000	120,000
②1人1日当たりの家庭ごみ排出量	463g	471g	465g	▲1.3%	430g	400g
③最終処分量	51,662	49,993	47,379	▲5.2%	49,000	46,000
推計人口(10月1日現在)	1,090,263	1,097,196	1,097,237	—	1,098,000	1,097,000

- 令和3年度のごみ総量については、前年度比0.6%減の361,199トンとなった。基準年度である令和元年度と比べて減少しているが、これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業ごみ量が大きく減少した状況が続いているためである。
- 1人1日当たりの家庭ごみ排出量については、前年度に比べて1.3%減少したものの、令和7年度の間目標との乖離が大きいため、一層のごみ減量・リサイクル推進が求められる。
- 最終処分量については、前年度に比べて5.2%減少しているが、これは家庭ごみ量が前年度に比べて約2,600トン減少したことによるものである。

(2) 家庭ごみに占める資源物の割合

(単位:%)

	R元年度 (基準年度)	R2年度 (実績)	R3年度		R7年度 中間目標	R12年度 最終目標
			実績	前年度比		
④資源物	42.5	41.3	42.0	+0.7	35.0	30.0
紙類	23.7	22.6	21.3	▲1.3	—	—
プラスチック製容器包装	9.8	10.0	11.0	+1.0	—	—
布類	7.4	7.4	7.5	+0.1	—	—
缶びん等	1.6	1.3	2.2	+0.9	—	—
生ごみ	32.5	30.0	35.4	+5.4	—	—
その他	25.0	28.7	22.6	▲6.1	—	—

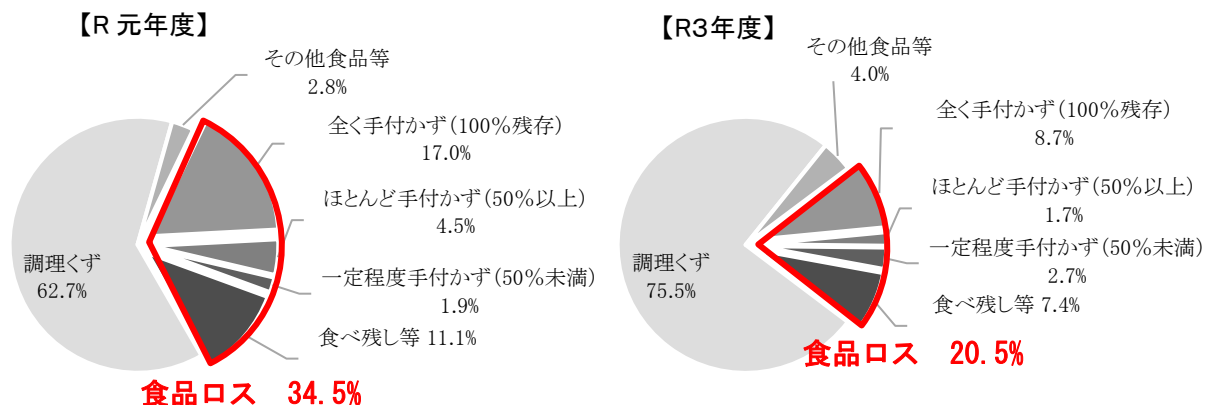
※ 毎月1回、清掃工場において家庭ごみ袋を抽出し開封調査した結果による(数値は年間平均値)

- 令和3年度の家庭ごみに占める資源物の割合は、前年度比0.7ポイント増の42.0%となっている。内訳では、紙類が減少する一方、プラスチック製容器包装が増加している。
- 令和7年度の中間目標の達成に向け、さらなる分別に向けた取り組みが必要である。

2 家庭ごみ等排出実態調査

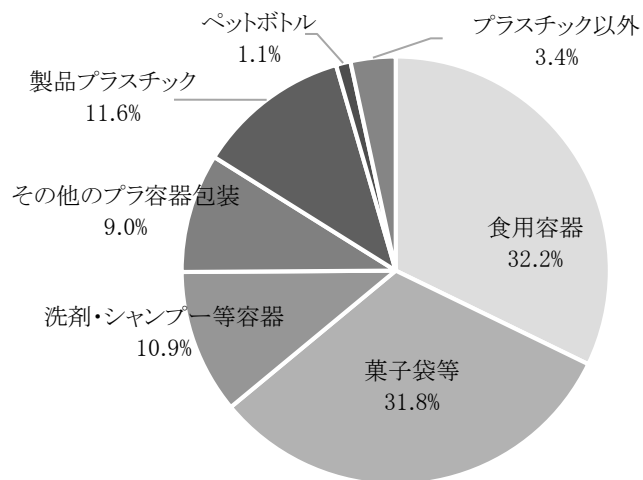
家庭からの食品ロス量を把握するため、令和3年11月29日～12月3日の3日間、5地区(各区1か所)を対象に、家庭ごみ袋の開封調査を実施。また、併せてコロナ禍でのごみの組成変化を把握するため、プラスチック製容器包装についても開封調査を実施した。

(1) 生ごみに占める食品ロスの割合



- 令和3年度の生ごみに占める食品ロスの割合は20.5%と、令和元年度に比べて14ポイント減少した。

(2) プラスチック製容器包装の組成



- 令和3年度は、「食用容器」が約32.2%と最も多く、次いで「菓子袋等」が約31.8%、「洗剤・シャンプー等容器」が約10.9%で、これらの3つで全体の約7割を占める。